

## R22b うしかい座ボイド領域の銀河サーベイ (1) 撮像と測定

前原英夫(国立天文台)、R.S.Stobie(SAAO)、山田亨(東北大理)、田辺健じ(岡山理科大)、川端善仁(岡山理科大)、山縣朋彦(文部省)

われわれは木曾シュミット望遠鏡による直接撮像から、ボイド領域の銀河のサーベイを行っている。天域として、うしかい座ボイドの中心付近の1天域と、比較用の1天域を選び出し、UBV各色の写真乾板を複数枚露出した。なお、同一フィールドのパロマーシュミットの写真(ガラス)コピーを手に入れて、比較用に用いた。測定はエジンバラ王立天文台のCOSMOSマシンにより行い、検出された天体に対して、位置・光度等級・形状・星/銀河の別等のデータをえた。校正されたデータを元に、銀河の個数密度分布などについて議論する。

目的天域全体(約30平方度)でえられた天体の総数は約15万個で、Vバンドで18等級の天体まで検出している。これらの天体のペアリングを行い、天体像のチェックを行い、カラーを求め、まず、KUG(木曾紫外超過銀河)の特性を有するものをカタログとしてリストする。ところで、COSMOSマシンで与えられている光度等級は、写真の特性曲線の効果を考慮しているにもかかわらず、真の等級に対し系統的な誤差を含むことが判明した。そこで、個々の天体の光度等級を精度良く決定することを考え、木曾シュミットでCCD測光を行い、解析を行っている。